

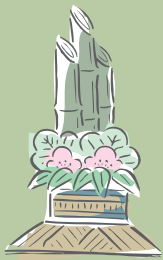
広報 しばた

子どもたちに明るい未来を

子どもたちの笑顔は、たくさんの人を幸せにします。
今年も子どもたちの笑顔があふれる、そして、柴田町の明るい未来を
切り拓いていくためのまちづくりを進めていきます。

2019年 新年のごあいさつ

—「花のまち柴田」をテーマに
コンパクトシティの実現に向けた新たな挑戦—



柴田町長
滝口 茂



バブル崩壊後の経済回復を図るためにとられたアベノミクスが7年目を迎えました。企業業績の好調さやAI、ロボット、IoTなどの技術革新もあって、国内の景気は明るさを持続しています。しかし、その陰で経済格差や所得格差、地域間格差が拡大するといった副作用が深刻な問題を引き起こしています。こんなに便利で豊かな社会になったのに、ワーキングプアや子どもの貧困、ブラック企業といった言葉が生まれてくるのはなぜなのでしょう。一番の理由は、競争社会に生き残るためと称して、労働の規制緩和や人件費の抑制などを進めた結果、非正規社員が大幅に増えたことです。非正規社員は正規社員と同じ仕事をしているのに、低賃金で働くことを余儀なくされています。これでは結婚して家庭を持つなどという意欲が湧くはずはありません。

また、地方自治体や農協の構造改革や規模の利益を求めて進められた合併によって、地域から役場や農協がなくなり、その影響もあって、商店街はにぎわいを失ってしまいました。若者は働く場を求めて都会に流出し、都市と地方との格差は広がるばかりです。国が進めた業務の効率化や生産性の向上を図るための規制緩和や民間参入、構造改革が、景気対策や企業の業績の回復に一定の効果があったとしても、それによってもたらされた副作用は、弱い立場の人たちや私たち地方自治体にしわ寄せをもたらしています。国は、新たな対策として、働き方改革や子どもの貧困対策、地方創生などを打ち出していますが、副作用を取り除くまでには至っていません。

人口減少と少子高齢化が同時に進行し、都市と地方との格差が拡大していく厳しい時代を迎えた中で、柴田町は、8年後の明るいまちづくりを目指し、現在、第6次柴田町総合計画を策定しております。

集約型の都市づくりを目指して

第6次柴田町総合計画では、未来の都市像をコンパクトプラスネットワーク型とし、集約型の都市づくりを目指すことにしました。槻木駅周辺、船岡駅周辺、東船岡駅周辺、船迫エリアの4極と農村部とをネットワークで結び、自然環境と共生した、災害にも強い、にぎわいのある暮らしやすいまちを創ってまいります。今年、柴田町の都市計画マスタープラン^{※1}と立地適正化計画^{※2}の策定に着手します。立地適正化計画には、都市計画区域内を対象に、医療、福祉、商業などの都市機能を都市の中心拠点や生活拠点に誘導し、



集約することで、各種サービスを効率的に提供する都市機能誘導区域と、一定エリアにおいて人口密度を維持することにより、生活サービスやコミュニティが持続的に維持される居住誘導地区を設定することになっています。

私としては、東船岡駅を起点に、大沼通り線東エリアに居住機能を集積し、都市計画道路新栄通り線の延長や、都市機能の増進に著しく寄与する総合体育館や公営住宅の整備を具体案として盛り込みたいと考えております。

策定に当たっては、都市建設部門だけではなく、医療、保健、福祉、産業、公共交通、農業、観光、防災部門など、各課と連携して取り組むとともに、住民の意見や都市計画審議会などの意見を十分反映させた中で策定したいと考えております。

このようにコンパクトシ

ティの実現に向け、新たなチャレンジを始める一方で、「花のまち柴田」をテーマとしたプロモーション活動をこれまで以上に展開し、柴田町のまちづくりに共感を覚える人を増やししながら、新たな人の流れをつくり、笑顔があふれる誇りと愛着を育むまちづくりを進めてまいります。

今回の第6次柴田町総合計画に盛り込む政策の中で、平成31年度に取り組む重点政策は、次の5つです。

政策1 「花のまち柴田」のステップアップ

これまで船岡城址公園では、3月のスプリング・フラワー・フェスティバルに始まり、4月の桜まつり、6月の紫陽花まつり、9月の曼珠沙華まつり、そして10月には大菊花展と四季折々の花が楽しめるイベントを展開してきた結果、柴田町の知名度もだいぶ高

まってきました。

また、昨年は、船岡城址公園山頂の船岡平和観音の足元に、宮城県造園建設業協会青年部の皆さんの手作りで見事な日本庭園を作庭いただきましたし、絹引きの井戸がある二ノ丸を憩いの広場として整備することで、新たに歴史文化的な見どころが加わるなど、今年

はさらに集客力が高まることを期待しているところです。これまで以上に、観光客の絶対数を増やしていくためには、オフタイム、オフシーズン対策にも力を入れていくことが必要です。

ファンタジーイルミネーションを拡充し、商店街でのイルミネーションや光り輝けメタセコイアの奇跡と連携し、冬の夜長に幻想的な光の世界を演出する夜景観光といった新たな切り口から、「花のまち柴田」のステップアップを図り、地域の活性化につなげてまいります。

政策2 快適な街並みの整備

人口減少時代を迎え、まち中においては、空き店舗空き家、駐車場が増え、市街地の空洞化が目立ってきました。まち中を活性化させるためには、まず道路、公園、住宅、下水道といった社会インフラを計画的に整備するとともに、水害対策などの防災、減災、さらに防犯や交通安全への対応といった、安全で快適なまちをつくる必要があります。

こうした基盤を整備した上で、美しい自然環境の中で人と人がつながり、文化や芸術を感じながら、またスポーツに感動しながら、暮らしを営んでいける、質の高い魅力的な街並みの形成を目指していきたいと思っております。

特に、若い人たちに住みたいまちとして選んでいただくためにも総合体育館や図書館といったスポーツ、



町民ゲートボール大会



第7B区行政区の夏まつり



さくらマラソン



文化環境を整えていくことは大変重要ですので、今年度は、2020年度に、総合体育館の建設地である旧不二トッコン跡地の造成工事ができるよう、各機関との調整を図ってまいります。

政策3
学力の向上と
子育て支援

子どもたちが安全で快適な学校環境で学べるよう、これまで学校の耐震化やトイレの洋式化、FF式暖房機の設定など学習環境の改善に努めてきました。

また、柴田町への愛着や誇りを持ってもらい、英語で柴田町の美しい桜並木を紹介できるようサクラプロジェクトを推進してきました。

さらに、今年は、昨年の酷暑を踏まえた対策として、全小中学校の普通教室や特別教室にエアコンの設置を進めていくとともに、東船岡小学校の大規模改造工事

の補助申請が認められるよう国に対する要望活動を強化してまいります。

次に、昨年の全国学力テストでは、仙台市を除く宮城県県の平均正答率が小学校で全国最下位、中学校で下位となったことから、町においても教育委員会や学校、そして保護者の皆さまと一体となって、学力の向上を図ってまいります。具体的には、県に対し授業改善を行うための指導主事の派遣を要請し、また、英語教育強化のためALTを増員し、4人体制にすることや、町独自の学力テストを小中学校全ての学年で実施してまいります。

また、0歳から2歳までに多い保育所等利用待機児童の解消に向けて、昨年新田地区に開園した民間の小規模保育園に加えて、今年4月には、槻木地区に新たに2カ所の小規模保育園が開園する運びとなっております。

政策4
健康タウンしばた
プロジェクトの推進

2025年までに75歳以上の後期高齢者の数が急速に増えることが想定されています。その分、介護施設や在宅サービスをますます増やさざるを得なくなるため、医療費や介護費用の増大が危惧されており、

さらに、医療・介護の担い手不足や老々介護の問題、一人暮らし世帯の孤立や買い物難民の発生など、超高齢社会の進展に伴うさまざまな問題が噴出してまいります。

今後、高齢者の皆さまが、住み慣れた地域で自分らしい暮らしができるよう、医療、介護予防、住まい、生活支援を一体的に提供するための地域包括ケアシステムの構築に努めてまいります。

また、昨年から仙台大学に委託してスタートした、スポーツを始めるきっかけ

づくりやスポーツの習慣化を目指す健康タウンしばたプロジェクトを、各行政区や企業などにおいて展開し、スポーツ実施率を50%に引き上げることで、健康づくりや介護予防に努めてまいります。

政策5
新たな仕事おこしによる
農村や里山の活性化

里山や農村地域においては、自然や景観、歴史や伝統文化などの豊かな資源を活用し、農産加工、産地直売所、農村レストランなどの取り組みが行われていきます。最近では、どぶろくや醸造酢の製造販売、新たなアウトドアとしてのグランピングの開業など、仕事おこしの動きが活発化しています。さらに里山や農村の魅力を訪ね歩く、フットパスやサイクルツーリズムによって、新たな人の流れが見られるようになっていきます。



天空カフェで柴田の桜を堪能する観光客



桜まつりで活躍する通訳ボランティア



花見に訪れた外国人観光客



こうした人の流れを仕事おこしに結びつけるために、地方で新規ビジネスに挑む起業家や地域住民とのつながりを強化する中で、観光イベントや農業体験などのグリーンツーリズムを推進し、里山ビジネスや集落ビジネスの振興を図ってまいります。

最後に、混迷する時代の中で、まず国や地方自治体を取り組むべきことは、社会的リスクの要因となっている所得格差、子どもの貧困、孤独死、DVなどといった問題を解決することではないかと思えます。さらに、新たな技術革新やグローバル化によってもたらされる便利な交流社会に即応できる体制づくりを急ぐ必要があります。町としては、マイナスをなるべくゼロにする政策と地方創生などを通じて、ゼロをプラスにする政策を同時に進捗してまいります。

今後の行政の守備範囲として、インバウンド政策にみられるような国際化を視野に入れた政策を加えるとともに、若者の田園回帰の流れやサイクルツーリズム人気を地域ブランドや地場産品の開発や販路開拓、農業への新規就農に結びつけていく、コーディネート機能を強化してまいります。

こうした新たな機能を担っていくためにも、これまでの役所の体質を変えるイノベーションに積極的に取り組んでまいります。

一つに、住民や地域が抱える課題解決に向けて、一段と政策形成力や専門的なスキルを持つ、爽やかな職員を育成してまいります。

二つに住民などからの要望に対して、スピード感を持って対応できる俊敏な役所に脱皮してまいります。

この一年間、未来を見据えて常に時代の変化を先取した政策力と地域経営力を持ちながら、多様な住民の

ニーズに誠実に対応していくことで、役所への信頼感を高め、頼りにされる町政運営を心掛けてまいります。町民の皆さまの力で「花のまち柴田」をテーマとするコンパクトシティの実現に向けた挑戦が明るい未来を引き寄せるものと思いたします。

今年もよろしくお願いいたします。



※1 都市計画マスタープラン：市町村の創意工夫の下に、都市の将来像を明確にし、その実現に向けての大きな道筋を明らかにするもの。

※2 立地適正化計画：市町村が都市全体の観点から作成する、居住機能や福祉・医療・商業などの都市機能の立地、公共交通の充実などに関する包括的なマスタープラン。市町村都市計画マスタープランの高度化版、市町村都市計画マスタープランの一部ともいわれている。

問 まちづくり政策課

☎ 5412111



年を迎えて の今年の抱負

10年ほど地元を離れて就職していましたが、一昨年より実家に戻り、家業である陶芸と画廊「アートスペース無可有の郷」の業務に就いています。まだまだ勉強中の身ではありますが、昨年両親と合同で初の「三人展」を開催することができました。

今年もより多くの皆さまの手に取っていただけるよう作品づくりに励みつつ、画廊では県内外の様々なジャンルの作家さんの展示を開催し、仙南のアートシーンを盛り上げ、皆さまの楽しい生活の一助となるよう取り組んでいきます。



陶芸 忠太田 兼
おおた ちかお
太田 理彦さん
(海老穴地区 32歳)

環境指導員になり、今まで以上に自然環境へ意識が向くようになりました。また、担当地域の四季が織りなす景色や、時折見かける野生動物など、普段は気付かないような小さな発見ができるのは、この業務の楽しいところかもしれません。

最近、落ちていたごみの量も減ってきたように感じられ、うれしく思っています。今年も地域住民の皆さまから頂く労いの言葉を糧に、地域の環境美化へ精一杯取り組んでまいります。



環境指導員
たかやま ぬみこ
高山 布美子さん
(西住地区 47歳)

昨年は、全日本学生柔道体重別選手権大会 57kg 級で第3位となり、中学校から始めた柔道でこれまでの最高の成績を取めることができ、素晴らしい年になりました。自分の中に勝ちたいという思いが強くあり、試合で練習の時のような力が出せ、勝負できたことが好成績を残せた要因だと思います。

今年は、もうひとつ上のレベルに行くためにも、自分が足りないと感じている技術を身に付けるべく、練習でも自分を追い込んでやっていきたいと思っています。そして、全日本学生柔道体重別選手権大会で優勝することを目標に今年1年がんばります。

仙台大学現代武道学科 3年
いづか あみ
飯塚 亜美さん
(船岡地区 20歳)



昨年11月から生徒会長として活動しています。生徒会長に選ばれてうれしいですが、大きな責任を負うことに不安も感じています。

私が生徒の皆さんに伝えたいことは、「人はそれぞれ劣っている部分、優れている部分があるので、何もかも一人でやろうとしないで、周りの人を頼っていい」ということです。そして、誰でも自分の意見が言えて、お互いに尊重し合える、学年を超えて助け合える学校にしていきたいです。

また、今年は3年生に進級する年ということで、中学校生活最後の部活動に打ち込むとともに、志望校に合格するための勉強も頑張る1年にしたいです。



船迫中学校 2年
まくら りあ
幕田 里咲さん
(新生町地区 14歳)

昨年、全国フットパスの集いで入間野山城跡の遊歩道整備、釜神さまや史跡めぐりの看板設置などに携わり、フットパスサポーターや入間野山城跡の地主の方々にご協力をいただきました。また、参加者の皆さんには、区民の皆さんによる「おもてなし」を楽しんでいただけたと思います。私たちもさまざまな方との交流を通し、貴重な経験ができました。

今年は、全国フットパスの集いの経験を生かして、近隣地区との交流を深め、入間野山城跡を基点とした古道の整備に取り組みます。

第17B区行政区総務
いしやま ともひろ
石山 智博さん
(松ヶ越地区 67歳)



2019年新 10人の皆さん

昨年の11月に生徒会長に選ばれ、生徒中心の学校づくりを目標に活動しています。高校の3年間は、大人になっても一番記憶に残っている時期だと思うので、その時間をみんなに楽しんでもらえるように、生徒会長として頑張るのはもちろん、生徒の皆さんにも後悔の無い高校生活を送ってもらいたいです。

本校は、数年後に統合されて新しい学校になりますが、大河原商業高校の歴史と伝統を何か形に残すことが出来るような行事などを、生徒全員で作ってあげたいと思います。

大河原商業高等学校 2年
山口 夏歩さん
(槻木地区 17歳)



ママカフェinしばたは、今年で立ち上げから3年目に突入します。

子育て中のママが、気軽に参加できるコミュニティの場・学びの場として、これからも活動を続けながら、今後は、さらにママの力が発揮できる場を広げていけるよう、福祉施設での活動や町内のイベントにも積極的に参加していきたいと考えています。

今年も皆さんと一緒に、楽しいママカフェinしばたを作っていきます。

ママカフェinしばた
代表 半沢 宏美さん
(西船迫地区 34歳)



私は、3年ほど前にノルディックウォーキングの仲間に入りました。

毎週月曜日の朝に第1区集会所前に集まり、準備運動をしてから出発します。現在のメンバーは17名で、毎回10名ほどの参加者が集まり、約2時間のコースを楽しみながら歩いています。一度のウォーキングでの歩数は約8,000歩にもなります。

他にも土曜日を除く毎日、午前中にグラウンドゴルフをやっています。

今後も、ボケ防止、足腰の老化防止のために、運動を続けていきたいです。

縦の木ウォーキング
代表 安藤 邦男さん
(船岡地区 73歳)



ぼくは、4年生の夏休みの終わりに村田町から柴田町へ転校して来ました。

柴田小学校のいいところは、自然がいっぱいなところ。そして、米作りや宿泊体験学習会などの行事が充実していて楽しいです。

ものを作るのが好きなので、今年は、図工に力を入れたいと思っています。また、挑戦してみたいことは、プログラミングです。将来は、ロボット技術を学ぶ学校に行き、体が不自由な人たちの生活を助けるロボットを作りたいです。

柴田小学校 5年
ついで 続 湧斗さん
(ゆずが丘地区 10歳)



「農業」という職業に携わり早7年。主に水稲と畑作の専業農家をしています。

僕が勤めている農事組合法人下名生ファームは、6次産業化に取り組み、昨年ぜひたく味噌の加工場と直売所が一つになった施設をオープンしました。

早7年と言ったものの、無限大の可能性を秘めた農業のスタートラインにしか立てていません。まだまだ学ぶ事も多く大変ですが、同時に、楽しみや苦勞を知り、とても楽しい日々でもありました。

今年も身体に気をつけ、未来あふれる農業に一歩ずつ前進していきたいと思っています。

農業
はつとりに 服部 勝さん
(上名生地区 28歳)



Shibata Fantasy Illumination 2018

日 12月1日(土)~30日(日)

所 JR船岡駅前~船岡城址公園



光の花が咲く しばた冬のイルミネーション



メタセコイアの奇跡！ 光り輝け槻木駅 2018

日 12月1日(土)~1月13日(日)

所 JR槻木駅東口、西口



とみざわ希望の光イルミネーション

日 11月24日(土)~1月11日(金)

所 富沢集会所



まちかど NEWS



ギャラリー南製作所の水口恵子オーナー（後列右）

ブロンズ化した小室達氏の作品を寄贈

12月7日（金）、東京都

大田区にあるギャラリー南製作所から、入間田地区出身の彫刻家、小室達氏の石こう作品「わらべ」をブロンズ化した像が寄贈されました。銅像の作成は、南製作所がクラウドファンディングを実施し実現しました。

南製作所の水口恵子オーナーが、「この銅像を地元の子ども達に見てもらいたいです」と話されると、滝口町長は、「地元にも文化的な素地があることを改めて町民の方々に知ってもらえると思います」と感謝を述べました。



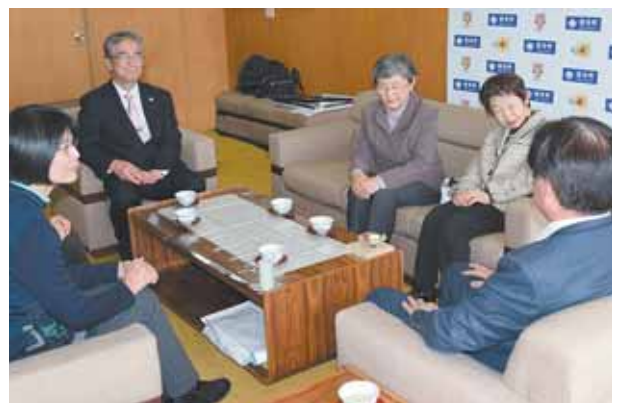
「わらべ」のモデルとなった小室達氏の長男の穰嗣さん。

文部科学大臣表彰を受賞

NEWS

柴田町朗読ボランティア「結」が、「障害者の生涯学習支援活動」に係る文部科学大臣表彰を受け、12月13日（木）に、会長の大村陽子さんと会員の3名が、滝口町長に報告に訪れました。

平成5年の活動開始から25年以上にわたり、文字を読むのが不自由な方へ、町の広報紙などを音訳して録音したCDの配布や、高齢者施設での対面朗読のボランティアなどの活動の功績が認められ、表彰されました。



前会長山口洋子さん（右から2番目）は、昨年度、社会教育功労者として表彰されました。

阿武隈川の大掃除「地域クリーン大作戦」



多くの人の手で綺麗な阿武隈川河川敷が保たれています。

11月17日（土）、第13行政区から第28行政区までの住民約60人が集まり、阿武隈川河川敷の清掃活動が行われ、1時間半の作業で空き缶やタイヤなど2トン車2台分ものごみが集まりました。

この活動は、清掃活動による地域のコミュニケーションづくりを目的に、槻木地区地域づくり推進協議会の主催で平成19年から継続して行われています。昨年7月には、永年にわたり河川の美化に努めたとして、東北地方整備局長より感謝状が贈られました。

花で繋がる地域の輪



地域の方に植え方を教わりながら植栽しました。

11月21日(水)、第30区行政
区の区民と西住小学校1、2
年生の児童、西住生活学校の
委員による清住2号公園への
植栽が行われました。

地域の方が草刈りと土の手
入れを行った花壇に、色とり
どりのパンジーの苗を児童ら
が丁寧に植えていきました。
伊藤真佳さん(1年は、
「みんなで植えたお花がいつ
ばい咲いて、きれいな公園に
なってほしいです。そして、
みんなでたくさん遊びたいで
す」と話してくれました。

歌と踊り自慢が集うチャリティ東西対抗歌祭



今回は西組が勝ち、通算成績は西組の4勝2敗となりました。

白石川を挟んで東西に分か
れ、歌謡や舞踊を競う、「第6
回柴田町チャリティ東西対抗
歌祭」が、11月25日(日)、槻
木生涯学習センターで開催さ
れ、参加者の歌や踊りが披露
されるたびに満員の観客から
大きな拍手が沸き起こって
いました。

東組の参加者の菊地ヨシ子
さん(船岡)は、「歌が大好き
です。体が丈夫な間は、毎回
出たいです」と話し、90歳に
なるとは思えない見事な歌声
を披露していました。



会場は1,600人ももの来場者で賑わいました。

柚子の魅力を紹介「第7回しばた柚子フェア」

11月23日(金・祝)、太陽の村
で、「第7回しばた柚子フェア」
が開催されました。新鮮な生
柚子や加工品の販売のほか、
「雨乞の柚子」を使った料理
教室、柚子の種とぼし大会な
どが行われ、多くの方が柴田
の柚子を味わいました。

親子3人で来場した吉田さ
ん(船岡)は、「柚子の販売だ
けではなく、使い方も教えて
もらえるのでとても参考にな
ります。柚子はジャムやお漬
物にして食べたいと思います」
と話していました。

告 告

告 告

行政区対抗玉入れ大会



シニアの部に11チーム、フリーの部に9チームが参加しました。

11月23日(金・祝)、「第7回柴田町行政区対抗玉入れ大会」が船岡小学校体育館で開催されました。参加者は、シニアの部とフリーの部に分かれ、それぞれ1分間で100個の玉をいかに早く入れるかを競い合いました。

シニアの部で優勝した8区シニアの白石雄三さんは、「まさか優勝できるとは思っていませんでした。決勝では、玉を全部入れることができ、有終の美を飾ることができました。勝因は団結力です」と話してくれました。

2018人権のつどいinしばた

12月15日(土)、「2018人権のつどいinしばた」が、槻木生涯学習センターで、人権と地域とのつながりを示し、人権の理解を深めることを目的に開催されました。

中学生人権作文の表彰と、審査委員長賞を受賞した槻木中学校3年白藝博さんの発表が行われ、「ノーマライゼーション」という言葉の知らないまちづくり」と題した講演では、岩手県陸前高田市の戸羽太市長が、「人は得意不得意があるのが当たり前。それを前提にまちづくりを行っていききたい」と述べていました。



戸羽太市長は、東日本大震災直前の2011年2月に市長となり、現在2期目を務められています。



誰でも簡単にできるレクリエーションの講演も行われました。

心も体も元気に介護予防推進大会

11月17日(土)、槻木生涯学習センターで「第12回柴田町介護予防推進大会」が開催されました。8団体の皆さんによるダンベル体操やストレッチ体操などの活動発表が行われ、会場の皆さんも一緒に体を動かしました。

男前ダンベル所属の佐藤達也さん(船岡)は、「ダンベル体操を始めて半年ほどですが、思っていたより良い運動になります。ダンベル体操を多くの人に知ってもらい、実際にやってもらいたいです」と話してくれました。

広 告

広 告



健康情報クリップ

なるほど!

みんなの健康ライフ シリーズ53

☎健康推進課 TEL 55-2160 FAX 55-4172

第53回のテーマは「お正月の体重管理」です。

お正月は、体を休め、ゆっくりと過ごす時間が多く、おせち料理などのごちそうを食べる機会が増えることから、体重が増加しやすい時期です。健康な一年を送ることができるように、食べる量に気をつけ、食を楽しみながらお正月を過ごしましょう。

お正月太りにならないために

1. おせちの選び方に気をつける

おせちは、塩分やカロリーが高めな料理もあります。カロリーを知って上手に調整して食べましょう。



カロリーが高めな主なおせち



カロリーが低めな主なおせち



栗きんとん



黒豆



伊達巻



なます



かまぼこ



煮しめ

【参考】 1食のお餅の目安

市販の切り餅2切れ = ご飯1膳分
(100g) (150g)

お餅は、満腹感が少なく、つい食べすぎてしまいますが、ごはんよりもカロリーが高めです。食べ過ぎに注意しましょう。

2. 食事時間を決める

普段の食事時間を意識することで食事のリズムが整い、ながら食いや食べ過ぎを予防できます。長時間ごちそうが食卓に並ぶことがないよう、その都度片付けましょう。

3. 会話を楽しみ、ゆっくりよく噛んで食べる

よく噛むことで、満腹中枢が刺激され食べ過ぎを抑えることができます。会話を楽しみ、ゆったりとした気持ちで食事をすることで早食い防止にもなります。

体重が増えてしまったら

1. 一週間を目安に、普段の食生活に切り替える

一週間単位で食べたものを記録すると量や内容を把握でき、食べ過ぎを抑えることができます。

2. 腹8分目を心がけ、胃腸を休ませる

食事を控えめにすることで、普段の体重に戻りやすくなります。また、疲れた胃腸が休まり体調も整います。

3. 家事や運動でからだを動かす

体重減少を意識して、こまめにからだを動かしましょう。



管理栄養士からのワンポイントアドバイス

朝晩の1日2回、体重測定を習慣にすると、肥満予防につながります。起床後、就寝前に、トイレを済ませてから測定しましょう。



俳句

狛犬の阿の口を出る寒夕焼
玉鋼烏帽子に跳ぬる年始

石母田 星人

青空のたかだかとあり冬桜

鎌形 清司

鈴の緒にこもれる淑気振り

齋藤 善則

冬晴や天守閣なき二条城

鈴木 清子

薄氷に咬まれてみたる羽毛かな

鈴木 幸子

輪飾りの玄武の方に故郷あり

相馬カツオ

去年今年思惟の中なるロダン像

峠 三枝子

初春や夢追ふ人の仲間入り

吉田 啓子

影つれて流るる雲や小春空

笠松ふみ子

野水仙吾が足元にふるえおり

可沼 妙子

初恋は夢にまかせて除夜の鐘

菲神 葛

過ぎし日々故郷想う今は冬

安藤 節子

冬霞嬉々せまり来るこらの声

西船迫 安ヶ平奈津枝

古希すぎてタブレットで撮る花写真

西船迫 深見 半翁

今咲いて春はどうする長寿梅

西船迫 三澤 精一

並木道黄い枯葉舞いあかる

榎木 加藤 マサ

寒い日は野菜たつぷりナベ料理

船岡 阿部美代子

まちわびる自動運転事故なしに

西船迫 舟廻めぐる

春炬燵しらず知らずに恋をして

下名生 笠松ふみ子

新年も悪代官とお殿様

自作自演の安倍劇場

小さき庭仄香匂ふ枯菊を

大槻 信吉

引きて葉牡丹二株植し

船岡 伊藤タイ子

幼きの小さい小さいくつ下は

船岡 沢田 順子

厳寒のときを優しく包む

船岡

短歌

その昔台湾より渡来せり
今は日本の高砂百合と

船岡 可沼 妙子

木枯らしに吹きさらされて見渡せば

四日市場 鳥井崎七老

気がつけばあれ、これ、それと言葉出ず

これではいかぬと脳のリハビリ

今年こそ喋り負けない爺になる

西船迫 下浦 智子

誰のまねっこ「オラオラ」の孫に

本船迫 森田 眞六

川柳

秋まつりステージ展示あざやかに
古希の妻今日もランチでオレ個食

西船迫 安ヶ平良三

野も山も燃え尽き冬至駆けてくる

四日市場 鳥井崎七老

夢ごこち小春日よりと窓ぎわで

榎木 村上 紫寿

友と行く関西旅行は珍道中

船岡 小林 夢子

西船迫 H・G

俳句・川柳・短歌に興味があり、こうほう文芸に載せたい方は、はがきなどで1月15日(火)まで応募ください。 〇 まちづくり政策課 ☎54-2111

広 告

広 告

広 告

広 告



柴田町の 記憶 をたどって

新年恒例、一年の安全を願う
出初式の様子を振り返ります。

昭和56年1月4日、白鳥神社、八幡神社に無火災を祈願したのち、河川敷で
実地放水が行われました。
(広報しばた昭和56年2月号より)



平成16年からは消防団、交通指導隊、
防犯実動隊、婦人防火クラブ連合会に
よる合同出初式となりました。
(広報しばた平成16年2月号より)

こども美術館



「かわせみが入ってくる場面
～やまなしより～」(絵)

柴田小学校5年

お ぼ ら と も き
小 原 知 起 さん



「キツネと夕やけ」(絵)

柴田小学校6年

高 橋 創 太 さん

廣 告

廣 告

廣 告

廣 告

こだわりの製法で 理想のお酢を造ります

株式会社奥野醸造

奥野 大地さん（38歳）

今回は、入間田地区でお酢を醸造している株式会社奥野醸造の奥野大地さんをご紹介します。



奥野醸造の貯蔵庫には大柄な奥野さんの身長をゆうに超える杉の木桶が並んでいます。

「木桶を使う昔ながらの製法で作るお酢は、手間がかかりますが、とてもまろやかで鼻にツンとくる刺激も少ない。それでも味が薄いわけではなく、むしろ濃い旨みがあります。高齢の方からは、昔懐かしいお酢の味がすると好評です」とご自身が造るお酢の特徴を話してくれました。

一般的な食酢は、速醸法という製造期間が数時間から数日で、かつ大量生産が可能な方法で醸造されます。一方、奥野醸造のお酢は静地発酵と呼ばれる醸造法で、お酢の元となる酒造りから行われます。「ごころく」状態のお酒に、酢酸菌などを混ぜて、100日以上時間をかけて発酵させます。「一番気を使うのは温度管理です。温度が低すぎても高すぎてもいけない。お酢自体の温度を、30℃後半から40℃に保つ必



発酵の様子を見極めながら、お酢を空気に触れさせ、発酵を促します。



株式会社奥野醸造
柴田町大字入間田字林44
TEL 51-8891

平成28年設立。平成29年の春に初出荷を果たす。玄米酢などのほか、発注を受けて味付けされた“飲むお酢”の製造も行っている。従業員1人。

要があります。空調機は酢酸菌で錆びてしまうため使えません。木桶にむしろを巻きながら温度調節を行っています」と話します。

お酢造りのやりがいについて伺うと、「実は、寒さが厳しく発酵が進みづらい東北は、お酢造りに適しているとは言えません。そんな環境の中で自然のものを相手にしながら、目で見て、匂いで感じて正解を探さないといけない。きつと、どこまで行っても正解は無く、試行錯誤を続けなければいけないと思います。それが面白さというか醍醐味じゃないでしょうか」と答えてくれました。

現在は受託生産や飲食店からの受注が主で、「今後は販路の開拓が課題です。まずは地元で消費してもらえようになりたいですね」と目標を話してくれました。こだわりのお酢を、多くの方に味わってもらえるように、これからも頑張ってください。

人口と世帯数
(平成30年12月1日現在)



37,970人
(前月比9人増)



18,945人
(前月比8人増)



19,025人
(前月比1人増)



15,774世帯
(前月比16世帯増)

※平成24年7月9日の住民基本台帳法の改正に伴い、外国人を含む人口と世帯数となります。